

平成27年5月15日

平成27年度第1回京都市明るい選挙推進協議会総会（摘録）

1 日 時 平成27年5月15日（金）午後1時30分から午後2時45分

2 場 所 本能寺文化会館 4階「櫓」

3 出席者

(1) 委員（○は副会長 敬称略）

立命館大学名誉教授	○村山 皓
京都新聞社論説委員長	○山中 英之
ジャーナリスト	木下 明美
京都青年会議所理事長	小山 元也
京都市地域女性連合会常任委員	市原 民子
京都市選挙管理委員会委員長	宇都宮 壮一
〃 委員長職務代理者	松原 信廣
東山区選挙管理委員会委員長	村井 明
山科区選挙管理委員会委員長	稲本 浩一

(2) 事務局

京都市選挙管理委員会事務局長	吉川 昌弘
〃 次長	境 康伸
〃 選挙課担当課長	田中 稔彦
〃 選挙課啓発係長	井上 俊彦
〃 選挙課書記	中世古 実穂

4 摘録

(1) 会長挨拶

(2) 協議

**【協議事項（1）第28期京都市明るい選挙推進協議会会長の選任について】**

事務局：（第28期京都市明るい選挙推進協議会会長の選任を依頼）

委員：引き続き木下富雄委員にお願いしたいと思うが、いかがか。

全委員：（承諾）

**【協議事項（2）第28期京都市明るい選挙推進協議会副会長の指名について】**

事務局：（第28期京都市明るい選挙推進協議会副会長の指名について説明）

会長に事前に指名者を伺った結果、引き続き、副会長は村山委員と山中委員にお願いしたいが、いかがか。

村山委員、山中委員：（承諾）

○平成26年度明るい選挙推進事業の実施結果について

事務局：「平成26年度明るい選挙推進事業実施状況報告書（平成27年3月31日現在）」資料に基づき説明。

委員：毎年実施している事業が非常に多いが、皆様ご存じのとおり投票率は

低下しており、啓発事業をどこで評価するかは難しい問題である。今年度無くす事業・強化する事業は何かあるのか。

事務局：27年度もほぼ同様の内容になる。ただ、18歳選挙権の開始に向けて、高校生向けの取り組みや、投票率の低い若年層への啓発事業は強化していかなくてはいけないと考えている。27年度中に、総務省から高校生向けの副読本が発行される予定のため、その内容を確認したうえで本市の方向性も検討していきたい。

委員：出前授業の実施状況をもう少し詳しく報告してほしい。

事務局：小学生6年生を対象に市内4校で実施した。池田小に関しては地域の大学の学生に協力してもらったこともあり、難しい内容にもかかわらず興味を持って熱心に聞いてくれていた。また、学習態度は学校によってバラバラで、積極的に質問をくれる学校もあれば退屈そうにしている学校もあった。

委員：論文コンクールの高校生の応募者が少ない。中学生には強制的に提出を依頼する等しているのか。

事務局：中学・高校で募集方法に差はない。募集締め切りが9月初旬のため、夏休みの作文の宿題に出してもらっていることが多いが、高校では作文の宿題が出ることが少なく、生徒個人の応募となっているため少ないのではないかと。また、選挙に限らず色々な分野の作文コンクールがあり、先生から宿題として選んでもらえるかどうかで応募者数は増減すると考えられる。学生に限らず20歳までの方が対象だが、一般の方の応募が少ない理由にはPR不足もあると思う。

委員：毎年、審査に関わっているが、多数の応募がある学校もあり、先生が熱心に指導されている学校があることがよくわかる。論文事業は学習効果も高く、出てくる作品も年々レベルが上がっていている。ただ、目の前に選挙権が迫っている高校生に対しては、出前授業のような実践的な授業を行った方が効果的なのでは。

委員：出前授業のやり方は考えていく必要がある。論文コンクールについては参加賞等の賞品で応募者を引き寄せるという手もある。

委員：統一地方選では公開討論会をさせていただいた。イベント時だけでなく常時こういった啓発活動を行うのは良いことだと思う。当会は会員が150名くらいいるので会合の場等で周知していくようにしたい。

#### ○平成27年度京都市明るい選挙推進事業計画について

事務局：「平成27年度明るい選挙推進事業計画」資料に基づき説明。

委員：18歳選挙権の開始に向けて、総務省のどの動きを見て対応していくのか、またスケジュールはどうなるのか。

事務局：秋頃に配布される副読本の記載内容等を確認し、次年度執行予定の参院選の前に市内新有権者向けにリーフレットを作成しようと考えている。皆さんに諮るのは市長選前の総会もしくは次年度第1回の総会となる予定。

委員：高校への出前授業等、事業実施にあたり人数確保はどうするのか。

- 事務局：各区の学生サポーターや明推協の委員の方々に御協力いただければと考えている。
- 委員：大学の先生に手伝ってもらい、授業のフィールドワークとして行えば、学生も単位取得できるため参加してもらいやすいのでは。窓口になってくれる先生を見つけてはどうか。
- 委員：「調査」を実施させる等、学生にとっても魅力的な授業内容でないといけない。フィードバックできるような工夫が必要。
- 委員：学生の関心を集めるために単位は重要。出前授業に関しては、選管単独で実施するのは厳しく、学校とどこまで協力できるかが課題ではないか。
- 委員：団体との連携という点で「ivote 関西」という学生団体との連携も考えてみては。精力的に活動している団体である。
- 委員：選管が主軸となっていると連携して動き辛いことも多い。明推協としては立場上どの位置づけになるのか難しいところである。
- 事務局：今後検討していきたい。

### (3) その他

#### ○啓発事業の審査員について

- 事務局：(論文コンクール及びポスター募集，選挙時のコンペにおける審査員について説明，承認を得る)

(2 : 4 5 終了)